

当番世話人挨拶

第15回日本先進糖尿病治療研究会を、2015年11月7日に、京都府で開催させていただきますこと、心より御礼申し上げます。

思えば1993年に発表された大規模臨床研究 DCCT（糖尿病のコントロールと合併症に関する研究）を大きな転換点として、糖尿病の治療は長足の進歩を遂げてきました。かつては避けがたい宿命と考えられていた糖尿病の合併症が、少なくとも技術的にはある程度、予防可能なものとなって、多くの糖尿病患者が適切な治療と自己管理のもと、より長い健康寿命を期待できるようになりました。しかしながら現実を振り返ると、心理・社会的な要因を含めた様々な事情から合併症に至る糖尿病患者さんの数はいまだに少なくないですし、血糖コントロール強化の支障となる低血糖の問題も完全な解決には至っておりません。

今回はテーマを「テクノロジーは人間の心を夢見る」とし、いかにして先進糖尿病治療に人間の心を通わせ社会に普及させていくか、という課題につき、参加者の皆様と考えていくことを主眼としたプログラムにいたしました。基調講演では、iPS細胞研究の現状と展望について、第一人者である神戸大学の青井貴之先生からご講演いただきます。教育講演では、インスリンポンプ療法が非常に普及した米国においてどのような患者サポートが行われているのかについて、インスリンポンプトレーニングの専門家である Medtronic Diabetes の Julie Schmaderer 先生にご講演いただきます。特別講演では、イギリスからインスリンポンプ療法の発明と実用化に多大な貢献をされた King's College London の John Pickup 先生をお招きして、インスリンポンプ療法の歴史と将来展望についてご講演いただきます。ランチョンセミナーでは東京女子医科大学の三浦順之助先生から重症低血糖予防についてご講演いただきます。

また、最近、日本国内でもリアルタイム表示型の持続血糖測定器（CGM）を搭載したインスリンポンプが使用可能となったことを受け、シンポジウム「センサー付きインスリンポンプ療法を成功させるために」では、医師として大阪市立大学の広瀬正和先生、看護師として神戸大学医学部附属病院の松田季代子先生、管理栄養士として国立病院機構京都医療センターの河口八重子先生、実際に使用している立場として1型糖尿病患者の正木章子様にご発言いただき、この新しい治療法を患者さんにとって安全で有効なものとしていくために必要なことを明らかにしていきたいと考えております。

一般演題（口演およびポスターセッション）は、インスリンポンプ療法、CGM、人工臓器などにつき20題のご応募をいただいております。会員の皆様より多くの演題をいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。さらに、今回の研究会では新たな試みとしてインスリンポンプメーカーによる医療従事者を対象としたハンズオンセミナーも同時開催する予定です。

会場のメルパルク京都は京都駅前に位置しております。学会の前後には、ぜひ、京都の秋をお楽しみいただければと思います。

最後になりましたが、このような貴重な機会をお与えいただきました当研究会世話人の皆様、演者の皆様、座長の皆様、そして参加者の皆様に、心より御礼を申し上げます。この研究会がさらなる先進糖尿病治療の推進と普及に役立つことを祈念しております。

村田 敬（独立行政法人 国立病院機構 京都医療センター 糖尿病センター）

第15回 日本先進糖尿病治療研究会当番世話人